

地域経済が豊かになってこそ

近頃は、三重県下でも耕作放棄地（休耕田など）にものすごい勢いで太陽光パネルが設置されて、自然エネルギーの普及が進んでいます。自然エネルギーが普及されると言う点ではよいのですが、喜んでばかりもいられません。

特に、太陽光パネルを誰が設置したのが問題です。小規模であれば、太陽光パネルの所有者・施工主は地域のとなり土地の所有者であることが多いですが、大規模な場合そうでない場合も多々あります。

大規模な太陽光パネルの設置は、大概は大企業などが施工主になっています。そこでの売電収入は、主に企業なり資本家である地域外の所有者や施工主に入ります。そうすると、地域にはお金が入りません。これでは地域にとつて果たして経済的なメリットがあるのでしようか。

ヨーロッパ、あるいは日本にもある持続的でエネルギー面でも自立している強い地域を見ると、太陽光パネルを設置し、所有し、発電業なりエネルギー熱を得る事業を営むのは、その地の住民や企業であることが多いです。住民たちが、自分たち自身でエネルギーを生み出し、自分たちのために使う。そのエネルギーに対する収入がちゃんと地域に落ちる構造になっているのです。自然エネルギーは地域資源であるのです。

単に太陽光パネルが設置されたというだけで、自然エネルギーが普及されたと勘違いし、喜んではいけません。このように考えていくと、結局、地域の

人々自身がしっかりとエネルギーを自給自足していくという未来を見つめて、自分たちが、それをどうしていくのか考えていくことが大事になってきます。

子どもたちへメッセージ

坂本教授は高校生たちと実際に話すことや講義をすることがあります。

その中で、自分たちの住んでいる町のことを知らない子どもたちが多いことに驚きます。山いっぱいの東紀州出身の高校生が、実はスギやヒノキを見たことがないと言います。スギとヒノキの葉っぱが見分けられないどころか、「スギとヒノキの葉っぱをはじめて見た」「ヒノキのおいって、こんなにおいだったんだ」、から始まるのです。

例えば、「自分の街に森があつたわけ」となります。なんとなく「山あつたよね」と言えても、森林率何パーセントなんてことは、もはや知る由もありません。

今の学校教育の中では、自分たちの住んでいる地域のことを学ぶことがなかなかないのが現状です。これは非常に悲しむべき事態です。だから、地域を知らず、地域の未来のことを考えていない子どもたちは、学校教育も含めて、地域の中に入つて、地域の人と一緒に勉強することが大事だと考えています。

坂本教授は、今も高校生を中心に講座で話をしていますが、実はもつと若年層から始めるべきではないかと言います。

熊野では「木育」と言つて、木のことがかわつている地域の人と一緒に

小学生から山を見せて、木を伐っているところを見せて、実際に木に触れて、自分たちは森の国に住んでいるんだよと意識させています。

今の学校教育ではよい人材をよい学校に送り出し、よい会社に入れるという風潮が強く見られ若者が地域外に出ていつてしまします。そういう意味では、これとあることに、この地域の未来をつくるのは、他の誰でもないあなたです。よとメッセージを送り続けています。県外に行つてもいいから必ず戻つておいで。あるいは、戻つてこないのであれば、新しく住む場所と地元をつなぎ役になつて、たとえば家を建てる時には地元三重県の木を使つてほしい。などと言いつづけることが大事なのかなと思っています。

今までの環境教育では自然を守ろうということになりがちでしたが、もつと自分たちの住んでいる地域をよく知つて、例えば、木であれば、守り育て、生活の中でそれを利用していく。土をつくり、そこで農産物をつくり、自分たちでそれを食べることを維持管理していく。南の地域であれば、自分たちの住んでいるところは9割が森林なんだよと。だから木を抜きにしてその地域は語れないのだと。紀南地域に住んでいる子どもたちには、海である。海藻であり魚介類であり養殖している魚であり海産物などの海の恵みがある場所なんだよと。中勢辺りであれば農業。稲、麦、豆、イモ、野菜、その他。そういう地域の本質的なことをちゃんと知り、そのことを胸において生きていく。そういうことを子どもたちにしっかりと教えていかなければならないと思っています。

人間は過去から便利に暮らすことに心血を注ぎ、今の暮らしがあります。しかしながらそのために犠牲にしています。した環境があることを、真摯に反省し、地球を守つていかなければなりません。もはや地球の温暖化は止まらないと言われていますが、今の環境でなければ、この環境にしか生きていけない人間をはじめ多くの生きものがいることを考えたとき、私たちは何か動きを起こさずにはいられないはず。地球は今、かつてないほど危機的な状況ですが、この地球の未来は、誰でもない私たちがつくりていくのですから。

写真提供 坂本竜彦氏

環境学習指導者養成スキルアップ講座のお知らせ

いかにして持続可能な地域社会を展望するか？

自然エネルギーによる小規模・分散・自立型・地域内循環システムの作り方

講師 坂本 竜彦 氏 国立大学法人
三重大学大学院生物資源学研究所・教授

開催日時：11月12日(日) 14:00～

場 所：三重県四日市庁舎 6階 大会議室

対象：高校生以上

受付：先着順

参加費：無料

募集人数：70人

主催・申込先：三重県環境学習情報センター